

2010映画祭にお越しいただいたみなさんから、多くの感想が寄せられました。その一部をご紹介します…①

人には様々な生きる姿があり、その姿が人を動かすものであることを改めて噛み締めた。どの映画もそれぞれに人の心の深さと幅を問うものであり、このような問いを与えられることの大事さを多くの人に知ってほしいと思います。

「1／4の奇跡」すばらしい映画で心をうたれました。不満ばかり言っている自分がはずかしくなりました。(69歳女性)

「ハダカの城」事件の内容は少し難しいと思いました。でも「なにがあってもあきらめない」「正義をつらぬく」というのはすごく勇気のいることだと思いました。

「1／4の奇跡」6年前に精神障害者に認定され「被害者」になり文句ばかり言って生きてきた私です。「自分はいかような人だ」って自分を愛するのではなく「甘やかさ」てきました。映画をみて雪絵ちゃんの言葉ひとつひとつが心にズーンと響いて涙がとまりませんでした。

「獄中13年」スクリーンのない映画は初めてだったのですごく新鮮な感じがして、会ったことも行ったこともない、人や場所がイメージできてすごくおもしろかったです。(45歳女性主婦)

「みなみ風その2」こんな旅があるのはすばらしいこととつくづく感動しました。出演者の表情に癒される。

「獄中13年」人生をこれほど深く考えさせられる作品に出会えたことに感謝します。どんな状況に至ってもそこに意味を見出し、目標を見失わない生き方に深く感動しました。(60歳男性会社員)

3回目の映画祭での鑑賞ですが、今回は特にバラエティに富んでおり、まったく飽きることなく3日間とも観ることができました。

「スクリーンのない映画」という試みに魅かれて来ました。「見えない」と「考え」始めるものなのですね。音から生まれる想像の強さに驚きました。「獄中13年」あんな体験をされたにもかかわらず、それでもなお昔に戻るならあの頃に…というセリフが強く心に残りました。

「犬と猫と人間と」暖かい気持ちになったり、つらい気持ちになったり、人間のごう慢なところが、心に突き刺さりました。すごく良かったです。(32歳女性会社員)

「1／4の奇跡」と「泣きながら生きて」を映画館で観て、また観たくて来ました。今年はどうな作品があるのか、毎年映画祭を楽しみにしています。(54歳女性主婦)

「犬と猫と人間と」以前から心のどこかで感じていたこと、とにかく何かをしなければ…その思いが確かめられました。怒りやいろんな感情が湧き出ている中で、私たちや私たちがつくっている社会のあり方を問い直し、自ら働きかける覚悟をしました。小さなうねりを社会のありかたを変える大きなうねりに変えたいです。(48歳女性会社員)

「空想の森」6年前、鹿追町の牧場で働いていました。となりの町で、こんなに暖かい人々が集まって楽しく働いているなんて知らなかったです。外の世界ばかりうらやましくなり、辞めてしまいました。物がたくさんある生活、大自然と共存する生活、どちらが私らしく生きられるのか、また考え直すきっかけになりました。(31歳女性フリーター)

「獄中13年」初めてラジオドキュメントを聞きました。映像のないことが、これほど迫力を生むのか

と驚きました。このような作品では、音楽のもつ役割も大きいと思います。(46歳男性自営業)

「犬と猫と人間と」大変大きな問題を含んだテーマで、特に日本のペット文化が浅く、エゴで動物をコントロールしている人間が嫌になった。(55歳男性会社員)

「南京・引き裂かれた記憶」戦争については学校などでも勉強するが、実際に体験した人の話というのは重みがある。被害者側も加害者側もどちらの話も聞いたのは良かったです。やっぱり戦争は誰にとっても良い思い出にはならず、起こしてはならない。普段映画を観るのはコメディ系ですが、ヒューマンドキュメンタリー映画というのも、奥が深く実話というのが心に響きました。(22歳女性生活指導員)

「元ホームレスのピアニスト」ホームレスになるという過酷な生活の中で、向上心を持つには「何か一つのもの」、一つの大切なものがあれば救われることがあると思った。贅沢なピアノ演奏が聞けて良かったです。

ヒューマンのよさは見なくてもいいことを観ることができ、考えなくてもいいことを考えることです。伊勢監督はじめ、生のおいを感じることは自分の感性が鈍っていることを気づかせてくれました。トークでは、それぞれの監督がどのような姿勢で制作に向き合うのか教えて頂いた。(47歳女性大学教員)

「泣きながら生きて」を観たくて来ました。丁さん家族の懸命に生きる姿、前向きな姿に励まされました。

2010映画祭にお越しいただいたみなさんから、多くの感想が寄せられました。その一部をご紹介します…②

「タイマグラバあちゃん」を観て、昔ながらの生活の知恵を見せつけられ、今は何もかも便利になり過ぎて衣食住の基本的なものが安易になっているように思った。大切なものは継承していくべきで、それが人間が必要としていることだと思った。ヒューマンドキュメンタリー映画ってすごく奥深く、主人公の存在観・意義を感じとり、自分は何のために生きて何をなるべく生かされているのかすごく考えさせられた。生きていると良い時も悪い時もある。今ちょっと落ち込んでいたが、新しいことを始めるにあたって勇気をもらえる映画が数々あり、自分に与えられた使命(?)にあった生き方ができたらと思った。(58歳女性自営業)

映画から学ぶこと、本当に多いです。劇映画と違い、作り物ではなく、一生懸命に生きている姿に感動します。素晴らしい作品に出会えたことに感謝します。(36歳女性)

遠くに置き忘れた、純粹・ピュアな感情を取り戻せた時間になりました。小さくても実の有る映画祭だと感じました。(52歳女性会社員)

どの作品も感動しました。時代の波に翻弄されながらも、その時の選択が、後の人生に大きな影響を与えているのだと、強く認識しました。(61歳男性会社員)

「風のかたち」は病気をかかえながらも「生」を信じ、前向きに今日を生きる子どもたちの姿に感動しました。キャンプファイアーを楽しむ姿も印象に残りました。また、ミニミニコンサート、最高!!でした。(54歳男性会社員)

どれも内容はそれぞれ違うが、命

の大切さ、人生の大切さを思わせてくれる良いものばかりでした。(42歳女性)

「泣きながら生きて」素晴らしかったです。中国は好きではなかったのですが、今自分の中で、変わる予感がします。(74歳男性会社員)

ときに感動し、ときに笑い、とてもすばらしい映画祭でした。阿倍野に住んでいるにも関わらず、6年間ずっと知りませんでした。僕自身友人や知り合いに伝えたいと思いますが、広報もますます頑張ってください。とても感動しました。(20歳男性学生)

「with…」いま人に求められている他者に対する感性を彼女は持っている。彼女のプシュケー(魂)は風となってネパールそして世界にその気づきをもたらしている。(55歳男性会社員)

「みなみ風その2」みんなとてもおだやかな顔をしている。ももちゃんの「ピグレットをやめたくない、はなれたくない」の言葉が印象的。スタッフさんの「形容しがたい何かがある」の言葉が映画を見終わったあとに自分も感じました。(39歳男性会社員)

「タイマグラバあちゃん」これをもう一度観たくて来ました。心がほっとしました。

「空想の森」人間の営みの楽しみ、苦しみ、おかしさ、美しさ、自然のおおらかさ、厳しさ。ゆったりとした音楽と共に、教えていただきました。面白かったです。

いまだに歴史の事実ちゃんと向かい合っていないこの国の未来に不信と不安が大いにあります。「南京・引き裂かれた記憶」は映像の

力、インパクトの深さに圧倒されました。(60歳女性)

何年にも渡ってこのような映画祭があったとは知らずにいて残念でした。しかし今回秀作ぞろいで来たかいいがあり報われた気がします。今後も期待します。

感動を受け止めて当事者意識を持ってこれからのパワーとさせていただきます。

今年で退職したので3日間全部観ました。それぞれに感動した力作ばかりだった。名もなくシコシコと作っているすばらしい作品が世の中にはいっぱいあると思うので今後上映してほしい。映像を通して人間が豊かになります。(63歳男性フリー)

動物が好きと言いつつ残酷な現状を見ないようにしていた自分を感じます。命は人間も動物も同じです。稲葉さんのメッセージを飯田監督からバトンリレーされている気がします。(54歳女性保育士)

身近でよい映画を安く観ることができて嬉しいです。主催者のお話しも少しお聞きしたいです。(56歳男性教員)

ラジオドキュメントは、音だけの世界に全神経を集中できて想像力も限り無く広がり、興味をもって聴くことができました。(63歳女性)

2日目の全作品を拝見しました。それぞれ違う作品を楽しみ衝撃も受けました。トークでは、制作の動機が面白く、作品にかける努力が珠玉の作品を作り出したのが良くわかりました。映像のない映画も想像力が刺激されて良かったです。大変お得な1300円でした。(女性会社員)

2010映画祭にお越しいただいたみなさんから、多くの感想が寄せられました。その一部をご紹介します…③

「with…」とても深く感動しました。私も音楽を通して希望を伝えられたらと強く思います。私にとってのwith…と生きていけるといいなと。

今日はずっと泣いていたような気がします。哀しい涙ではなく、見終えた時“ずん”と胸に何かが残っている、その証のような涙。私はまだまだ若い。だからこそ、こんな素敵なドキュメンタリーをたくさん観て、色々知っておくべきだと思う。(21歳女性学生)

「みなみ風その2」職員のにスポットをあてたバージョンも観てみたい。苦労が全面に出る映画だと思っていたけど、真逆で、明るさや優しさや笑顔が心に残りました。

2007年からこの映画祭に来ています。何となく生きていることに疑問を持たたのは「with…」のお陰です。他の作品も素晴らしく、ドキュメンタリーが好きな人はもちろん、他の人にも観てほしいと感じました。(22歳男性学生)

3日目しか来られませんでした。1日目、2日目も観に来れば良かったのと思わせる内容でした。

「南京…」良かったです。小生も昔人間で少し右よりですが、戦争はいけませんね。

「空想の森」協働学舎へ行きたいと思いました。「つるはし」…あれを観ただけで農作業、北海道の手作業の厳しさがよくわかりました。聡美さんがベッドからあかりさんを抱き上げた時、おむつの匂いを嗅ぐ仕種がものすごくリアルで素晴らしかったです。(74歳男性会社員)

「元ホームレスのピアニスト」本当に感動しました。目の不調

で長年に渡りラジオと友だちの日々を送っています。今後、より長くスクリーンのない映画を観たいです。今日はとても嬉しい一日でした。(70歳代女性)

「with…」「泣きながら生きて」共に、日本とアジアといった視点を感じさせるもので、興味深かったです。(43歳男性ラジオ番組制作)

3本しか観られなかったのですが、3日間参加したかったと思う程素晴らしい作品でした。自分にとって異質な人たちの話には、共感することばかりで刺激になりました。自分に当てはめて考えてみると…と思うと、頭が混乱しそうですが、考えることをやめてしまうのは人生の終わりだと思いました。

ドキュメンタリーをこんなに観たのは初めてです。面白くて3日間通いました。来年もきっと観に来ると思います。(51歳男性自営業)

人には様々な生きる姿があり、その姿が人の心を動かすものであることを改めて噛みしめました。どの映画もそれぞれに人の心の深さと幅を問うものであり、このような問いを与えられることの大切さを多くの人に知ってほしいと思います。

17年前、夫は急性骨髄性白血病で57歳で亡くなりました。当時は不治の病でした。でも「風のかたち」を観て、今や治る病であり子どもたちが元気に生きている姿は、まるで夫が生き続けているようでとても嬉しかったです。(66歳女性フリーター)

「子どもは死んではいけない人達」胸に響きました。今年4月に入園した受持ちの子どもが、6月に突然亡くなりました。2歳でした。世の中連日悲しいニュースが流

れてきます。子どもは病だけではなく様々な環境の中で、命を続けられない事が起こっています。毎日子どもたちと接していて、細谷先生の言葉はほんとうに人間が改めて感じなければいけない言葉だと思います。それと、「子どもは死ぬんだ」とも改めて感じました。だからこそ子どもを大切に見守り、生きやすく生きられるよう道をつくらなければいけないと思います。

一人ひとり違う環境の中で生きています。どんな環境であっても子どもは生きていかなければならないのです。(49歳女性保育士)

今回初めてこの映画祭のことを知り参加しました。たくさんの感動と希望をくださり、本当にありがとうございました。自分の夢と希望に向かって頑張る勇気をいただきました。(45歳女性会社員)

「with…」「泣きながら生きて」合田さんのピアノにも感動しました。特に「泣きながら生きて」は、子どもをもつ親として、謙虚な生き方の丁さんに少し自分を重ねて観ていました。涙が自然に流れていました。忘れかけたことをいろいろと考えさせられました。暑い一日ですが、映画祭へ来て充実した時間になり、「得」をしたように思います。

ドキュメントは、特に個人作品はやむにやまれず作られている迫力がすばらしいと改めて感じます。深い想いが、現実を変えていく、あるいは作りあげていく。信じて止まない意欲が作品の画面に沸き上がってくるのだらうと想います。どの作品も終わりのないドラマの連続なのですね。人の生活と生命の継続の尊さを深く感じさせられました。(57歳男性大学職員)